

犬山市介護認定審査会の認定状況分析結果について

令和3年度第1回委員会にて、令和3年1月から3月までの認定審査会の認定結果データに、主治医意見書の第一疾病を「国民生活基礎調査介護票」の疾病分類に合わせて分類してまとめたものを提示させていただきました。

この度、1年分のデータがまとまりましたので、下記のとおり報告いたします。

※詳細は別添をご覧ください。

1. 令和3年認定状況（別添 表紙）

認定審査件数	2,356人
新規申請	1,016人
内前回認定のない新規申請	619人
更新申請	1,113人
変更申請	227人

・男性 935名 女性 1,421名

(男女比 1 : 1.52)

《参考》

総人口 73,030人 (R3.12.31末現在)

65歳以上人口 21,427人

(男女比 1 : 1.25)

2. 分析

・P2「図 1-1 男女別要介護度」

・軽度者の割合は全体の 60.4%（うち、新規は約 70%）

・軽度者の年齢別の割合では、男性は女性に比べ 65-74 歳の「要支援 1」が多く、女性は男性に比べ 75-89 歳の「要支援 1」が多い。

・P11, 12「表 10、表 11、図 11 前回と今回の認定結果の比較」

・軽度者は「現状維持」「悪化」の割合は高く「改善」の割合が低い。

・季節で見ると、冬は他の時期に比べて悪化が多く、春は悪化が一番少ない。

・P13, 14「表 12 疾病と季節の関連（男女別）」

・男性は「認知症」と「脳血管疾患」が多い。

・女性は「認知症」と「骨折・転倒」が多い。

3. 方向性（P14）※別添内容の転記

1年間（令和3年1月～12月）の分析結果から、季節ごとの原因疾病の傾向は若干相違あるものの、軽度者の「脳血管疾患」「関節疾患」「認知症」「転倒・骨折」が主な要介護状態になる原因疾病であることが判明した。

このため、「関節疾患」「転倒・骨折」については予防の取組みとしてリハビリ専門職と連携をとりながら事業を展開する。

また、「脳血管疾患」は若いうちから生活習慣病予防、「認知症」については生活習慣病予防と併せ、軽度認知障害（MC I）の段階から早期発見・早期治療ができるよう、今後も医療・介護・健康分野との連携をを図りながら事業を進めていく。

4. リハビリ利用者の抽出

介護予防サービス給付者のうち、リハビリを利用している人の割合 31.6%

(給付者：1,000人 リハ利用者：316人)

データ範囲：令和2年3月～令和3年2月

(単位：人)

サービス	内訳	計	合計
訪問リハビリテーション	リハのみ利用	3	8
	他のサービスも利用	5	
通所リハビリテーション	リハのみ利用	155	308
	他のサービスも利用	153	

※介護保険保険者支援システムよりデータ抽出

今後、リハビリ専門職との連携を進めていくにあたり、令和4年度には次期計画に向けたアンケートを実施し、市民ニーズの把握を図ります。

また、江南厚生病院が地域活動の一環とし、行政と連携した事業展開を予定されています。本市においても、他市町同様に事業実施の方向で検討しており、その事業実施結果を参考にしながら、次期計画では、本市の利用者の方々の健康寿命の増進につながるきっかけとなるような、効果的な事業展開の検討を進めて参ります。

【江南厚生病院の事業内容】

- ・ 専門職(※)による運動器疾患の理解と予防の普及啓発活動を実施し、運動器疾患を予防する地域活動の効果が、健康寿命の増進につながることを目指すもの
 - ・ 実施時期：令和4年度（犬山市は下半期を予定）
 - ・ 実施自治体：犬山市、江南市、大口町、扶桑町（予定）
- (※) 整形外科医師、管理栄養士、リハビリテーション専門職